

BIMONTHLY REPORT

バイマンスリーレポート
No.

402 SENDAI KEIZAI DOYUKAI
2020.6.20

[特集]

**慶長遣欧使節として
スペインやイタリアに
赴いた支倉常長の業績が
評価されたのは、
明治時代になってから**

[巻頭言]

**地域に必要とされる企業として
世界に誇れる仙台の将来像を考える**

株式会社深松組 代表取締役社長／深松 努

[Pick Up]

COVID-19 レポート

地域に必要とされる企業として 世界に誇れる仙台の将来像を考える

東 日本大震災で青葉神社の灯籠や鳥居が倒れた時、すぐに建て直そうということになったのですが、宮司さんがやってきて「震災でまだ民が苦しんでいるのに直すのは早いと政宗公が言っている」というのです。2年後、「政宗公のお許しができた」という宮司さんの言葉を受けて、灯籠や神池の護岸石積の修復工事や石の鳥居の再建支援をお手伝いさせていただきました。もちろん費用の不足分も当社負担で。青葉神社は子どものころ秘密基地を作って遊んだ思い出の場所で、現在は毎年安全祈願をさせていただいている神社です。こうした形で恩返しできたことを嬉しく思っています。

当社は創業95年になりますが、もともと富山県朝日町出身で新潟県側の東北電力様の水力発電所の建設施工を主として創業しました。仙台には東北電力様の本社があり、仙台に本社を構えることになりました。私が会社を引き継いだのは、リーマンショックで不況の嵐が吹き荒れる2008年のことでした。当社は、土木、建築、賃貸の事業があり、なんとか賃貸の収益で社員のリストラをせずにしのぐことができました。その3年後に東日本大震災があり、被災地には膨大な仕事量が生まれたのですが、私は今後も不測の事態は必ず起こるだろうと考えました。その際に会社を支える柱をもっと作っておかなければならない、そこで力を入れ始めたのが太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギー事業です。

今、取り組んでいるのは富山県朝日町の笹川地区におけるプロジェクトで、小水力発電による売電収入で老朽化した水道設

備を補修し、将来にわたって安心できる街づくりをしようというものです。富山と新潟の県境にある笹川地区は、私が3歳まで住んでいた先祖伝来の故郷でもあります。そこで展開する新たなモデル事業は、高齢化や過疎化などの問題を抱える多くの自治体から注目を集めています。

私の場合、思いついたらまず動いてみよう、現場に足を運ぶのが常です。仕事の基本は、信頼関係だといつも実感しています。ミャンマーや沖縄で仕事をするようになったのも、人との出会いがきっかけでした。ミャンマーでは、日本の技術を伝える勉強会を開くなどして、現地で働く人たちとの相互理解を深めることができました。沖縄は宮古島の美しい海にすっかり魅せられ、現地の人と親しくなりさまざまな情報提供を受けながら、現在ホテルや賃貸マンションを建設中です。

コロナ禍があって、今世の中は大きく変わろうとしています。これまで東京に集中していた首都機能も、遠からず地方都市に分散されることになるでしょう。東日本大震災を経て仙台市はさまざまな防災対策を進めてきました。当社も先頭に立って対策に当たってきたので自信を持って、今後同規模の災害が起こっても仙台では死亡者ゼロの安全な防災都市だと言いうことができるのです。地域には東北大学があり優秀な人材も豊富です。未来の子供たちが、防災についても独自の技術力についても、世界に誇れる仙台をつくりたい、そのために、仙台経済同友会の皆さんとともに、ワクワクすることを考えてまいります。